

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	沖縄県うるま市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	うるま市文化遺産活用推進プラン	【計画の改善時期】 平成32年度	
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度		
5 実施計画の概要			
<p>本市の『平成30年度市政方針』の(5)「郷土に誇りをもち未来を拓く人づくり」をもとに、文化財の保護と活用を目的とした『勝連城跡保存管理計画』(平成28年3月)やその観光と活用を目的とした『勝連城跡周辺文化観光施設基本計画策定業務報告書』(平成29年3月)等を踏まえ、地域社会における民俗文化財等の伝統芸能の保存・継承に努め、地域資源としての活用を推進するため、下記の取り組みを実施する。また、実施計画期間においては、本市の文化遺産を保存・継承し、活用していくための体制の確立も目指す。</p> <p>※うるま市の『平成30年度市政方針』は、URL (http://www.city.uruma.lg.jp/userfiles/U001/files/30siseihousin.pdf)にある。</p>			
6 実施体制			
<p>本実施計画に係る全体の企画・調整や、各補助事業に係る指導等は以下の担当課が行う。 文化財課：各補助事業における文化財の取扱等に関する指導・調整等 観光振興課ほか：観光業務に関する連絡等 また、補助事業は次の団体が実施する。 津堅の伝統文化継承記録作成事業実行委員会 構成団体(津堅民俗芸能保存会、ビティ島応援会、うるま市観光物産協会等)</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 7,816 千円	平成30年度申請額： 7,212 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果(定性的な効果を記載)			
<p>市民の地域社会の文化遺産に対する関心や意識が向上し、今後市民の力による地域の文化遺産の保存と、次世代への確実な継承とともに、地域の活性化が期待できる。また、行政と民間団体、文化財保護団体による連携・協力体制が構築されるとともに、『うるま市観光振興ビジョン』(平成19年3月)で目標(200万人)としている観光客の増加に寄与することができるほか、『勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画』(平成25年12月)等においても成果を図られる。</p>			
10 その他事業(自主財源、民間団体、他省庁等からの補助(支援)を予定している事業など)			
事業概要	第26回ふるさと芸能デー事業(自主財源)		
事業概要	第33回獅子舞フェスティバル事業(自主財源)		
事業概要	伊波メンサー後継者育成事業(自主財源)		
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<p>本事業の実施により地域一体となって文化遺産の保存・活用を図る機運を醸成し、その資源を収集するため、平成27年度より市内の文化遺産をまとめ、『うるま市文化財要覧』(平成28年3月)等を刊行した。今後も地域の文化遺産の悉皆調査を継続し、平成34年度以降を目的に歴史文化基本構想の策定を目指す。</p>			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	うるま市教育委員会教育部文化財課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	伝統文化の継承体制の維持・確立						
評価指標区分 1 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)						
具体的な指標 1 :	記録映像に準じた後継者養成			関連事業:	事業①		
目標値 1 :	【現状値】 平成 30 年度 25 名 ⇒ 【目標値】 平成 31 年度 40 名						
設定根拠 1 :	津堅民俗芸能保存会会員数を参考として、毎年度伸び率1.6倍と設定						
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成	年度	平成	年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
	名		名	25 名	33 名	40 名	
				0%	53%	100%	

様式 1 - 1 別紙②

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	津堅島の伝統文化継承記録作成事業	実施団体：	津堅島の伝統文化継承記録作成事業実行委員会			
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度			
事業概要：	県選択無形民俗文化財の津堅島の唐踊を核とした島の伝統文化芸能を映像記録する。また、次世代へ伝承させていく目的により映像を活用し、市内の教育機関（図書館、資料館、公民館等）へ配布し、市民の教育教材としても活用する。さらにその文化遺産を観光資源として市の公式HP等にて発信し、普及拡大を図る。					
評価指標区分：	・ 保存会会員数の変化（維持）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	記録映像に準じた後継者を養成し、津堅民俗芸能保存会の会員数を増やす。					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 25 名 ⇒ 【目標値】 平成 31 年度 40 名					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
名	名	25 名	33 名	40 名	名	
		0%	53%	100%		